

北海道の印刷

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

第716号

[Website] <http://www.print.or.jp>

[E-mail] info@print.or.jp

1

2016

平成28年
1月1日発行

謹賀新年

INDEX

年頭あいさつ	3~6
「全日本印刷工業組合連合会創立60周年記念表彰をお祝する会」開催	7・8
平成28年新年交礼会日程	8
平成28年度(第15回)印刷産業環境優良工場表彰案内	9・10
平成28年紙上新年名刺交歓	11~15

[表紙] 士幌高原の初日の出(1月1日:河東郡士幌町)

北海道印刷工業組合

〒064-0808 札幌市中央区南8条西6丁目1036番地
TEL.011-562-6070/FAX.011-562-6072

UD
FONT
by MORISAWA

100%
古紙100%再生紙

VEGETABLE
OIL INK

GREEN PRINTING UNIT
P-00023
2016年度印刷産業環境優良工場
表彰状受賞企業として認定

CSR
P-00023

この印刷物は、CSRに
取り組む印刷会社が製作
した印刷物です。

北海道情報・印刷産業展が

HOPE

HOKKAIDO PRINT EXPO

に生まれ変わります。

これまで、皆様にご協力いただき、1993年（平成5年）から23回にわたり開催して参りました

「北海道情報・印刷産業展」は、新しい展開を模索することとし、
昨年度（6月11日～13日開催）をもって終了することにしました。

今、印刷産業は、取り巻く環境が様変わりし、未曾有の転換期にあり、
勝ち残っていくためには、ソリューション・プロバイダーへの深化が求められています。

そのためには、ハードとソフトの両方に着眼をしていかなければならず、
新しい目線で印刷産業を捉えることができるよう、学びに主眼を置いて、
印刷産業が発展を遂げられるようしていかなければなりません。

このような状況を鑑みまして、今年度から印刷産業展は、
これまで培って参りました「北海道情報・印刷産業展」の伝統と成果を踏まえて、
スタイルと内容を変えて、展示とセミナーを組み合わせた、学びと情報提供の場として、
新しく「HOPE」（HOKKAIDO PRINT EXPO）として歩みを始めることとしました。

HOPE2016 開催概要

HOKKAIDO PRINT EXPO

名 称	HOPE2016(HOKKAIDO PRINT EXPO2016)					
主 催	HOPE実行委員会					
後 援 (予 定)	経済産業省北海道経済産業局／北海道／札幌市					
協 賛 (予 定)	(株)日本印刷新聞社／(株)印刷出版研究所／ニュープリンティング(株)					
日 時	9月2日(金)・3日(土) 10:00～17:00					
会 場	アクセスサッポロ（札幌市白石区流通センター4丁目3番55号）					
展 示	Dホール					
セ ミ ナ ー		会場名	収容人員	10:30～12:00	13:00～14:30	15:00～16:30
	9月2日(金)	小 展 示 場	120	基 調 講 演	①	②
		研 修 室 A	80		③	④
		レセプションホール	80		⑤	⑥
	9月3日(土)	小 展 示 場	120	主 催 者 セ ミ ナ ー	⑦	⑧
		研 修 室 A	80		⑨	⑩
レセプションホール		80	⑪		⑫	



北海道印刷工業組合
理事長

板倉 清

明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、ご壮健で新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年中は、組合運営ならびに事業推進に格別のご協力ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年の経済環境は、政府が発表している月例経済報告では、「緩やか回復基調が続いている」、道内は経済産業省北海道経済産業局が発表している最近の管内経済概況では「緩やかに持ち直している」という表現がほぼ通年で使われ景気の浮揚が伝えられています。

一方、道内印刷業界においてはこれらとは隔世の感があるように思える状況が続いているなか、主材料である用紙が為替相場の急激な円安による原料価格の高騰を理由とした値上げが行われ、さらに社会・経済構造の変化による未曾有の大きな変革への対応が迫られるなど、一層の経営努力が強いられた一年でありました。

このような環境下で、北海道印刷工業組合では、組合員企業の繁栄、発展のため、さまざまな活動を行って参りました。

世の中が大きく変化し、従来の営業スタイルが通用しなくなりつつあるなかで、営業マンが“モノ売りからコト売り”へと販促コンサルタントへ転身していくための「印刷営業セミナー」の開催、今年から運用が始まるマイナンバー制度への対応策を習得するためのセミナーの開催など、明日の経営資源としての活用を図って参りました。

個人情報取り扱いが企業の存亡に繋がりがねない時代、中小印刷業を対象に策定された“日本印刷個人情報保護体制認定制度（JPPS）”の取得講習会を北海道で初めて開催し、半年の期間を研修・社内体制整備等に費やし、12月に7社の組合員が認定企業として登録されました。

昨年、全日本印刷工業組合連合会が創立60周年を迎え、10月に記念式典が挙行され、席上、記念特別表彰が行われ、長年の業界振興や組合発展に貢献した功績が認められ、北海道から7人の方々が栄えある受賞に浴されました。

本年は、北海道新幹線開業という道民の長い念願であった明るい話題があります。

加えて、近年のインバウンドの高まりは、観光産業のみに止まらず、知恵を絞ることで印刷需要の底上げ、新需要の創出が大きく期待できます。

反面、北洋サケ・マス流し網漁の禁止、TPP大筋合意など北海道の基幹産業に影を落とすような展開も考慮しなければならない状況もあります。

北海道の印刷業界では、平成5年から23回にわたり開催してきた北海道情報・印刷産業展が、本年から学びに主眼を置き、展示とセミナーを組み合わせた「HOPE (HOKKAIDO PRINT EXPO)」に生まれ変わります。

今、印刷産業は、取り巻く環境が様変わりし、未曾有の転換期にあり、勝ち残っていくためにはソリューション・プロバイダーへの深化が求められています。

そのためには、ハードとソフトの両方に着眼していかなければならず、新しい目線で印刷産業を捉えられる「HOPE」に寄せる期待は大きいものがあります。

北海道の印刷産業人が挙って、「HOPE」を育てていきたいと思っています。

どうかご協力をお願いします。

年明け早々には、「未来を創るセミナー」と題し、印刷物の未来を創るキーワードとされている“マーケティングオーメーション”に焦点を当てたセミナーを開催し、今後の進むべき方向性を模索して参ります。

当組合は、430社を超える組合員を有していた時代から、社会・経済環境の変遷とも相俟って、現在は150社を下回る状況です。

業界全体の分母が減っていることは否めませんが、業界団体は組織率を上げることから行動力が高まりますので、皆さまのお力添えをいただきながら加入促進運動を強力に進めて参ります。

併せて、関係各位のご理解を賜り、賛助会員の加入促進を推し進めて参ります。

年が改まり、今年一年の抱負を思い描きますが、昨年からの延長線上には未来は無いと言われるので、今年こそは発想を鮮やかに転換し、大きく躍進できる行動を取るべく精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、関係諸官庁、各機関・団体をはじめ関連業界ならびに組合員の皆さまの一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。新しい年が皆さまにとりましてより佳い年となりますようご祈念申し上げます。新年のごあいさつとします。



経済産業省
北海道経済産業局長

秋庭英人

平成28年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年の我が国経済を振り返ると、アベノミクスの推進により、デフレ脱却の機運が高まるとともに、企業収益は過去最高水準に達し、有効求人倍率は23年ぶりの高水準となるなど、経済の着実な好循環が生まれました。また、昨年6月には「日本再興戦略」改訂2015が策定され、アベノミクスは第2ステージに入り、ローカル・アベノミクスの実現に向けた地方創生の深化の動きが本格的に始動しました。北海道でも、各自治体にて、産学官金労言と住民等多様な関係者の協働により、地域の強みを生かした「地方版総合戦略」の策定が進められております。新年を迎えるに当たり、景気回復の動きを一層確実なものとし、北海道経済を持続的に発展させるため、北海道が誇る地域資源やブランド力を磨き上げ、北海道産業の「稼ぐ力」を徹底的に強化するための政策を展開してまいります。

まず、「食」「観光」関連分野の成長を確固たるものにするための取組を進めてまいります。昨年10月にTPP協定が大筋合意され、グローバルな事業展開が重要性を増していく中、食のバリューチェーン革新による道内農水産物・食品の輸出拡大及び、IoTなど新たな情報技術の活用や農商工連携の推進を通じ、食関連産業の競争力強化を支援してまいります。また、観光については、近年注目される道産ワインをはじめ、優れた地域資源を活用した魅力ある体験・交流型ツーリズムの開発、初の国際的なコンベンション（No Maps）の開催やDMO創設支援等の環境整備により、国内外観光客数の一層の増加や、それに伴う消費拡大に向けた積極的な事業展開を支援してまいります。さらに、地域経済分析システム（RESAS）の活用による地方版総合戦略の策定・フォローアップ、関連交付金の申請支援等を通じ、熱意ある自治体の地方創生の取組を支援してまいります。あわせて、革新的な技術や製品を生み出すものづくり産業及び、人口減少・高齢化といった地域が抱える課題の克服に向けた医工連携の推進、ヘルスケア産業の活性化支援に取り組んでまいります。

次に、北海道経済成長のエンジンであり、地域の発展、雇用の重要な担い手である中小企業・小規模事業者の活力を引き出す取組も重要です。革新的な研究開発や設備投資によるイノベーション創出を後押しするとともに、企業が抱える経営課題の解決に向け、自治体・商工会議所・商工会・地域金融機関や専門家等との連携を通じたワンストップサービスを拡充してまいります。また、創業支援や円滑な事業承継の促進支援に加え、地域資源活用・農商工連携による新商品・新サービスの開発・販路開拓や海外展開を支援してまいります。さらに、地域の活力の源である商店街や中心市街地の活性化に向け、まちの賑わい創出、地域商業の自立化を支援してまいります。

道内企業・産業の安定的な成長を支え、社会に安全・安心を提供するための取組も進めてまいります。第四次エネルギー基本計画及び昨年7月に策定した長期エネルギー需給見通し（エネルギーミックス）に基づき、徹底した省エネルギーの推進や資源・エネルギーの経済的かつ安定的な供給確保に引き続き取り組み、エネルギー面から北海道産業の発展を支えてまいります。また、本年4月から開始される電力小売の全面自由化の円滑な始動に向け、各種情報提供等により適切な環境整備を行います。さらに、消費者取引や製品安全に関する法令の適正な執行やリコール・重大事故等の情報提供を通じ、消費者利益の増進及び製品の安全・安心の確保に努めます。

こうした支援が、意欲ある皆様の「未来への投資」、「生産性向上」につながり、北海道経済のさらなる好循環をもたらすことを期待しております。私ども職員一同は、「現場主義」を第一に、活力ある北海道の創造へ向け、関係機関の皆様と共に汗を流し、新たな潮流と大きな付加価値を生み出す仕事をしてまいりたいと考えております。

本年が皆様にとって実りの多い飛躍の年となりますよう、心から祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。



北海道知事

高橋はるみ

新年明けましておめでとうございます。

お陰をもちまして、私が北海道知事として四期目の舵取りを担わせていただくから、初めての新春を迎えることができました。道民の皆様には、平素から道政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、北海道博物館のオープンやアポイ岳の世界ジオパーク認定など、自然や文化をはじめとした本道の魅力を積極的に発信するとともに、ドクターヘリの道南圏への導入・十勝圏への運航拡大や防災・減災の視点に立った社会資本整備の計画的な推進など安全・安心の確保に努め、さらに、社会の活力を支える女性の方々が一層輝き、将来を担う子どもたちがその可能性を発揮できる環境づくりなどの取組を進めてまいりました。そして、本道の最大の強みである食と観光の分野においては、高い目標を掲げた上で、ミラノ国際博覧会をはじめ国内外での北海道ブランドの積極的なPRや新千歳空港の深夜・早朝時間帯の発着枠拡大など、全庁を挙げて取り組んできたところであり、将来に向けて力強く歩みを進めることのできた一年であったと考えています。

道政の最重要課題である人口減少問題については、道民の皆様と認識を共有し、北海道の総力を結集して、総合的・計画的に施策を推進するため北海道創生総合戦略を策定しました。この総合戦略や来年度からスタートする新たな総合計画のもと、本道において、人を育て、地域を創り、人を呼び込むための取組を進め、幅広い世代の皆様が豊かに暮らし続けることのできる北海道の実現に力を注いでまいります。

また、TPP協定交渉の大筋合意やロシア二百海里水域におけるさけ・ます流し網漁業の禁止という、農林水産業をはじめ地域経済への影響が懸念される課題に直面しました。道として、政府に対し万全の対応を求めるとともに、今後とも、本道の一次産業が確実に再生産が図られ、地域経済が持続的に発展するよう、しっかりと取り組んでまいります。

本年3月26日、ついに道民の夢・北海道新幹線が開業します。

私たちの前に広がるこのチャンスを確実にとらえ、東北地方をはじめ首都圏や北関東などとの交流を更に拡大させ、その効果を全道に波及させていくことが、北海道の新時代を切り拓く上で、何よりも重要であると考えています。

私は、北海道新幹線の開業を大きな盛り上がりの中で迎え、子どもたちをはじめ道民の皆様にとって輝かしい記憶に残る一年とするため、全力を尽くしてまいりますので、皆様の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして、希望に満ちた年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



全日本印刷工業組合連合会
会長

島村博之

明けましておめでとうございます。

旧年中は、当連合会に格別のご支援とご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げますとともに、本年も一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

また、昨年10月に行いました「全印工連創立60周年記念行事」では、900名を超える方々にお集まりいただき、60周年という節目を盛大に祝うとともに全印工連の団結と協調、さらには将来の業界発展に向けての強い気概を再確認することができましたことは、全国の印刷工業組合の役員、組合員、関連業界の皆様のご理解とご協力の賜物と深く感謝を申し上げる次第です。

さて、昨年は、国内では議論を呼んだ安全保障関連法が成立し、「マイナンバー法」も施行されました。国外ではギリシャの金融危機、TPPの大筋合意、フランス・パリでの連続テロ事件などがあり、国内外ともに先を見越すことが難しい混沌とした状況が続いています。

このような中、今年、全印工連では「印刷産業新成長戦略2025計画」を発表します。環境、地域創生、女性活躍、ダイバーシティ、CSRなどの様々な座標軸から印刷産業の新しい立ち位置を考え、自らが印刷に繋がる新しいプロセス変革を興し、地域経済、延いては日本経済に貢献でき得る事業者へ成長するためのシナリオです。加えて、これまでとこれからのInsatsuと人とのつながり、22世紀の印刷人に向けたメッセージ、印刷組合のこれからの在り方など、中小印刷業界の発展の可能性に満ち溢れた示唆に富んだ内容となっており、これまでソリューション・プロバイダーへの進化（深化）で研究し、実践してきたことがさらに大きく広がる幾多のチャンスが説かれています。

61年目を迎えた全印工連、「印刷産業新成長戦略2025計画」という新しい魅力的なステージに登るため、日本全国の組合員企業とともに、自信を持って大きな一歩を踏み出す年にしたいと考えております。

結びに、2016年が皆様にとって明るく希望に満ちた素晴らしい一年となりますよう心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

「全日本印刷工業組合連合会 創立60周年記念表彰をお祝する会」開催

80人が参加し、札幌支部所属4人の受賞を祝う

札幌支部（岸 昌洋支部長）は、同支部所属の岡部康彦氏（北陽ビジネスフォーム）・木野口功氏（アイワード）・西山恒夫氏（大輝印刷）・飯村俊幸氏（飯村印刷）の4人の「全日本印刷工業組合連合会創立60周年記念表彰受賞をお祝する会」を、11月30日午後6時から札幌市中央区の札幌パークホテルで組合員・関連業者80余人が出席して開催した。

祝 賀会は受賞者4人が拍手で迎えられに入場し、最初に岸昌洋札幌支部長が「今回の祝賀会の案内をしたところ、このように多数の皆さまにお集まりいただきありがとうございました。今回受賞された4人の方々は業界の大先輩であるが、私にとっても公私にわたり大変お世話になっている方々である。私では業界のそして経営者の大先輩として常日頃、先代の時から指導・鞭撻をいただいている。公では北海道印刷業界の組合事業を運営され大変な功績を残され今回賞をいただいた」と発起人としてあいさつを述べた。

次に、参会者を代表して板倉清理事長が、4人の受賞の経緯と略歴を紹介したあと、「本当に長い年月、業界の振興・発展と組合の成長等に尽力いただいた功績には、ただただ頭が下がり敬服している。改めて、衷心より深く感謝申し上げたい。印刷業界を取り巻く環境は、未曾有の転換期にあり、先行き予断を許さない状況にあるが、先輩の皆様の築かれた偉業と伝統を支えに不断の努力を重ねていくので、今後も尚一層のお力添えを賜りたい。重ねて、指導、鞭撻、叱責を遠慮なく頂戴したい」と祝辞を述べた。

つづいて、記念品・花束の贈呈が行われ、4人の受賞者からそれぞれあいさつが述べられた。

中小企業庁長官表彰を受賞した岡部康彦氏（北陽ビジネスフォーム(株)会長）は、「私が北海道の理



事長を仰せつかり、一番印象に残っているのはやはり2012年に全印工連の大会を札幌で行ったことである。あの印象が今でも脳裏から離れない。本当にあの時は全員が力を合わせて素晴らしい大会に盛り上げてくれたということを特に感謝したい。私は個人的に言えば、懇親会の席で私が立ち上がったら60人のコンパニオンが私を囲んでくれた、あの喜びは今でも忘れられない。もう賞をもらうことはないと思うが、叙勲か何かがあればいいなどは密かに思っている」と述べた。

経済産業省商務情報政策局長表彰を受賞した木野口功氏（株アイワード会長）は、「私が理事長になったのは数えても忘れるくらいで1990年である。それから8年間理事長を務めた。当時の全印工連の会長は、今の技術協会の会長の塚田さんのお父さんで、我々業界をリードしてくれた方で、その次が宝印刷の

野村さんである。そういった素晴らしい方々に指導を受けた。先日、業界新聞を見ていたら、相当以前から付き合いのある三重県のアサプリの松岡社長さんの講演の記事が載っていた。業界が悪いとか良いとかということではなく、これからは経営者が良いのか悪いのかを考えなければならないと言っていた。喜寿を迎えて今更営業の先頭に立つということでもないが、やはりこの厳しい時代、経営者次第だということを考えさせられた。是非、組合のなかでも経営者の一人一人がそういうつもりで、自分の企業を守るというか、どんなに大変になってもこれから50年、100年と続けていくという決意でいかなければならぬということ強く感じた」と述べた。

全日本印刷工業組合連合会会長特別表彰を受賞した西山恒夫氏（大輝印刷(株)会長）は、「私は印刷業界にお世話になって今年60年になった。人の出会いを宝として多くの貴重な経験をした。まだまだ前途多難な時であるが、未来を開き、業態変革を繰り返し、時代時代にしっかり勝ち残る力を持つことが必要だと思っている。激しく時代が変化するなかで組合の強い指導力が必ず必要である」と述べた。

同じく全日本印刷工業組合連合会会長特別表彰を受賞した飯村俊幸氏（飯村印刷(株)社長）は、「私は

若いころは組合の役員は、父がやっていたせいもあるが、非常に否定的であった。一銭にもならないことをやって何になるのか。そんな時間があったら商売に励んでほしい。面と向かっては言わないが、そういう反感を持って若い時代を過ごした。それがよもや180度変わろうとは夢にも思わなかった。役員をさせていただいて世の中の流れが分かったし、いろいろなことを学ばせていただいた。商売だけをしていたら人間的にもっと未熟であったと思う。今でも十分未熟だと言う声もあるが。そういう意味では得難い、代え難い経験をさせてもらい、ありがたいことだと感謝申し上げる」と述べた。

次に、井田多加夫副理事長・旭川支部長が4人の受賞者と旭川支部との関わりを披露し、声高らかに「乾杯」し、開宴した。

祝電披露が行われ、食事と歓談が続くなか、富士フィルムビジネスサプライ(株)野村龍太郎社長、ハイデルベルグ・ジャパン(株)水野秀也社長、(株)サクマ池田哲会長の3人からテーブルスピーチが述べられ、最後に、松井丈オホーツク支部長がユーモア一杯のあいさつの後、三本で締め祝賀会を閉会した。

（受賞者の横顔は、本紙714号で既報）

平成28年新年交礼会日程

名称・支部	日 時	時 間	会 場
北海道印刷関連業協議会	1月 8日(金)	17:00	札幌グランドホテル
旭 川 支 部	1月 15日(金)	17:00	旭川グランドホテル
函 館 支 部	1月 15日(金)	18:00	一乃松
小 樽 支 部	1月 22日(金)	18:00	ニュー三幸
十 勝 支 部	1月 22日(金)	18:00	アパホテル帯広駅前
オ ホ ー ツ ク 支 部	1月 25日(月)	18:00	北見ピアソンホテル
札 幌 支 部 新 年 例 会	2月 12日(金)	18:00	札幌東急REIホテル

平成28年度（第15回） 印刷産業環境優良工場表彰のご案内

（一社）日本印刷産業連合会は、平成28年度（第15回）印刷産業環境優良工場表彰を行う。
応募要領は次のとおり。

1 目的

印刷産業の環境に配慮した環境優良工場の表彰制度を実施することにより、企業規模、業態にかかわらず企業の環境問題に対する取り組みを推進するとともに、印刷産業関連工場の環境の改善及び印刷企業に対する社会の一層の理解の獲得を図り、もって我が国印刷産業の振興に資することを目的とする。

2 応募資格

- ①（一社）日本印刷産業連合会の会員である10団体傘下の会員企業であること。
- ②平成28年2月1日において、工場稼働後3年以上経過していること。
- ③最近5カ年以内に環境法令等に基づき操業停止等の行政による処分を受けていないこと。
- ④第2次審査への応募は1企業1工場に限る。

3 応募方法

所属する会員団体を経由して応募するものとする。

4 応募の手続き

- ①第1次審査…次の書類を1通提出する。
ア)印刷産業環境優良工場表彰応募票
—第1次審査用—
- ②第2次審査…次の書類を正1通、副2通提出するものとする。
ア)印刷産業環境優良工場表彰候補工場応募票
—第2次審査用—
イ)工場全体、各作業場、環境関連施設及びその他記入項目に関する写真（別綴じ）

③応募書類は、（一社）日本印刷産業連合会のホームページ（<http://www.jfpi.or.jp>）からダウンロードする。

5 応募期間

第1次審査…平成27年12月1日～平成28年1月29日
第2次審査…平成28年2月22日～平成28年4月22日

6 表彰の種類

経済産業大臣賞

経済産業省商務情報政策局長賞（小規模事業所振興部門あり）

（一社）日本印刷産業連合会会長賞（小規模事業所振興部門あり）

（一社）日本印刷産業連合会奨励賞（小規模事業所振興部門あり）

※上記賞以外に表彰に値する工場（継続性、業界貢献等）には特別賞を授与する。

※局長賞、会長賞、奨励賞は部門別に審査する。

7 表彰の方法

表彰該当工場に賞状および記念品を授与する。

8 表彰式

日時：平成28年9月14日(水)

会場：ホテルニューオータニ（東京都千代田区紀尾井町4-4）

※「2016印刷の月・記念式典」にて表彰（予定）

9 審査基準

(1)次の各号を満たしている工場を表彰の対象とする。（大臣賞、局長賞、会長賞）

①工場の周辺環境対策^{*1}が同業種内の他の工場に比較して高水準にあること又は近年における環境改善が著しいこと。

②広域的な環境対策^{*2}が同業種内の他の工場に

比較して高水準にあること又は近年における環境改善が著しいこと。

③工場内における作業環境^{*3}が同業種内の他の工場と比較して高水準に管理されていること。

④環境管理体制が整備されており、環境対応が明確に企業経営の中で位置づけられていること。

⑤環境対応が企業経営の上で具体的効果をもたらしていること。

※1.周辺環境対策（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、悪臭等の公害防止、景観などから総合的に判断されるもの）

※2.広域的な環境対策（地球温暖化防止、環境汚染物質の削減、化学物質管理、省資源、廃棄物処理、リサイクル等）

※3.作業環境（労働衛生、労働安全、清掃・整理整頓などから総合的に判断されるもの）

(2)奨励賞は上記によらず、特に努力及び改善が認められる工場に授与する。

(3)上記によらず、表彰に値する工場には特別賞を授与する。

⑩.選考の方法

①小規模事業所振興部門への応募工場は、同部門内で審査を行う。（局長賞、会長賞、奨励賞）

②（社）日本印刷産業連合会・印刷産業環境優良工場表彰選考委員会の審査による。

③大臣賞、局長賞の工場は、審査委員会による現地審査^{*4}6月1日～6月24日の期間内を必須要件とする。

※4.応募書類の内容の実施状況等（労働災害状況等含む）の確認審査

⑪事後の報告

会長は、受賞工場から工場環境について、適宜報告を求められることができる。

⑫留意事項

①選考にあたっては、環境負荷が高い業種、企業規模の小さい工場、設立後の年数が経っている工場等が不利にならないよう、環境配慮に努力している点を評価する。特に印刷産業の大半をなす小規模事業所の環境改善活動を振興するため、小規模事業所部門を設置した。

②過去に本表彰を受賞した工場については、その上位の賞に限り選考の対象とする。

⑬問合せ先

一般社団法人日本印刷産業連合会 環境表彰担当

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

電話03-3553-6051 FAX03-3553-6079

[E-mail]info.dm@jfpj.or.jp